



京都切絵歳時記

月刊

あじえんだ

2007年

7月



みやこ
京のアジェンダ21フォーラム 事務局通信
月刊あじえんだは当フォーラムの活動紹介を中心とした
京都発、環境関係の情報発信紙です

事務所 〒612-0031
京都市伏見区深草池ノ内町13
京エコロジーセンター2F
活動支援室内
TEL: 075-647-3535 FAX: 075-647-3536
E-mail: ma21f@mbx.kyoto-inet.or.jp

事務局 〒604-8101
京都市中京区柳馬場通御池下ル柳八幡町65
京都朝日ビル4F
京都市総合企画局地球温暖化対策室内
TEL: 075-211-9281 FAX: 075-211-9286

京のアジェンダ
21フォーラム



京のアジェンダ21フォーラム2007（平成19）年度総会を開催

『京のアジェンダ21』の重要性を再確認 全議案が承認される

6月15日（金）、ぱ・る・るプラザ
KYOTOにて、京のアジェンダ21フォーラム
2007（平成19）年度総会が開催されました。

- (1) 「2006（平成18）年度事業報告について」
- (2) 「2006（平成18）年度収支決算について」
- (3) 「2007（平成19）年度活動方針及び
事業計画について」
- (4) 「2007（平成19）年度収支予算について」
- (5) 「幹事・監事の選任について」

以上の議案が会員数（554会員）の過半数の出席・委任を得て可決されました。

今年度の総会は金曜日の夜に交通の便のよい京都駅前で開催したこともあり、KES取得企業の団体会員の方を中心にお勤め帰りの方の多数のご出席をいただきました。なお、会員の皆様には別途総会のご報告を郵送いたします。

内藤正明フォーラム代表の挨拶

先日のサミット（主要国首脳会議）で2050年にCO2の50%削減を目指す「美しい星50」という戦略が提案されるなど、最近、地球温暖化を巡って世界が急ピッチで動いています。その中で今、“京都議定書以後、京都はどうするのか”が問われています。

京都の持つ『京のアジェンダ21』というバイブルは、作られた当初から、京都議定書を守り、さらにその先の削減目標達成のためには、この行動計画以外あり得ない、と言えるものになっています。作り直すべきだろうかという話もありますが、これは現在でも何も変える必要がないものであると私は思います。『京のアジェンダ21』ができた当時としては実行が難しかったことも、やっていた状況になってきた今、改めてこのバイブルを読み直して頑張っていきましょう。



会場の様子



内藤正明フォーラム代表



選任された幹事・監事一同



京都市青少年科学センターに環境体験学習施設を寄付 子供たちにエネルギーの大切さを伝え、京都の未来を開く

詳しくは次ページ記事をご覧ください。

Agenda Forum

7月の
ミーティングと
主催行事の予定

4日（水） ecotone事務所
9日（月） 木野環境事務所

えこまつりワーキンググループ運営会議
環境調和型観光の統合パッケージの開発プロジェクト会議



青少年科学センターに環境体験学習施設を寄付

6月5日に寄付受納式が行われる

エネルギーの大切さを子供たちが学ぶ契機に

今年4月、フォーラムとともに発展してきたKES認証事業は、更なる事業発展のためNPO法人KES環境機構として新たに出発することになりました。新出発に当たりKESから、次代を担う子供たちの役に立ててほしいと、KES認証事業部特別会計より寄付金特別会計に500万円が移され、その内容について検討してきました。

フォーラム代表への感謝状贈呈があり、歓談ののち閉会となりました。

歓談では、環境体験学習施設で子供たちに体験学習してもらいたいテーマが話題になりました。

各種の自然エネルギーについての知識の習得にとどまらず、エネルギーを起こすことの大変さを目の当たりにすることで、日常生活においてエネルギーを大切に使うことが大事だと子供たちに気づいてもらう体験学習の場にしたいと、式典に出席した各主体の期待が一致し、今年8月（予定）の施設の完成を待望して受納式を終えました。

この度、環境体験学習施設（500万円相当）を京都市教育委員会に寄贈することとなりました。同施設は、全市立小中学校から児童・生徒が集う京都市青少年科学センターに設置されます。

6月5日に市役所教育長室において、寄付受納式が行われました。内藤フォーラム代表から門川教育長への目録贈呈、津村KES環境機構専務理事による趣旨説明、また教育長からフォー



青少年科学センターに設置される環境体験学習施設



（左から）門川教育長・内藤フォーラム代表 津村KES環境機構専務理事 感謝状と施設解説パネルを手に

京のアジェンダ
21フォーラム



6月15日 会員交流会「サロンdeエコ」を開催しました

50名を超える参加 KES取得の京都センチュリーホテルの料理をいただきながら

6月15日の総会の終了後、ぱ・る・るプラザKYOTOにて、会員交流会「サロンdeエコ」を開催しました。KESを取得された企業、NPOなど、50名を超える会員の皆さんがご参加くださいました。

新役員を代表して、内藤代表が挨拶してくださいました。また、今年度の重点プロジェクト、主要プロジ

エクトのリーダーの皆さんが、プロジェクトへの参加者募集の呼びかけをされたほか、新入会員の皆さんにも、一言ご挨拶していただきました。

お料理は、KESを取得され熱心に環境問題への取り組みを進めておられる、京都センチュリーホテルさんが作ってくださいました。おいしいお料理をいただきながら、会員同士の交流を深めることができました。



会場の様子



本年度の重点プロジェクト「京都環境コミュニティ活動（KESC）」のプロジェクトチームリーダーの（有）村田堂・長屋さん



代表・幹事長・幹事長代理・常任幹事が決定

6月15日(金)総会終了後、ぱ・る・るプラザKYOTOの6階会議室において、2007(平成19)年度第3回幹事会が開催され、総会で選任された幹事の中から、代表・幹事長・幹事長代理・常任幹事が選出されました。2007(平成19)年度・2008(平成20)年度の2年間、下記体制でフォーラムを運営していくこととなります。よろしくお祈りいたします。

(敬称略)

【代表】 内藤正明 (京大名誉教授・特定非営利活動法人循環共生社会システム研究所代表理事)

【幹事長】 小幡範夫 (立命館大学政策科学部教授)

【幹事長代理】 杵本育生 (特定非営利活動法人環境市民代表理事)

【常任幹事】

浅岡美恵 (弁護士)

阿蘇紀夫

(財団法人京都市環境事業協会京エコロジーセンター事業長)

奥原恒興 (京都商工会議所専務理事代行)

田浦健朗 (特定非営利活動法人気候ネットワーク事務局長)

高橋 修 (京都市地球環境政策監)

高橋肇子 (京都市地域女性連合会常任委員)

谷口正克 (社団法人京都工業会理事)

津村昭夫 (特定非営利活動法人KES環境機構専務理事)

中川 大 (京大大学院工学研究科教授)

山内 寛 (山科保健協議会連合会会長)

【幹事】

石谷彰男 (環境クラブ京都会長)

伊東真吾 (京都府地球温暖化防止活動推進センター事務局長)

今嵐正三 (京都府中小企業団体中央会事務局長)

大島 仁 (京都市都市計画局長)

草川健治 (京都市環境局長)

桑原 毅 (株式会社京都新聞社報道局長兼社会報道部長)

佐合 真 (株式会社京都放送ラジオ編成局長)

高田光治

(財団法人京都市ユースホステル協会ユースホステル部長)

都鳥正喜

(社会福祉法人京都市社会福祉協議会事務局長代理政策調整監)

中井敏宏 (京都府企画環境部環境政策監)

中川藤兵衛 (京都商店連盟事務局長)

西村仁志 (環境共有事務所カラーズ代表)

本部正一 (社団法人京都市観光協会事務局長)

松井 雄 (社団法人京都青年会議所副理事長)

森井保光 (京都市産業観光局長)

文字英夫 (社団法人京都ボランティア協会理事)

【監事】

幸前清孝 (環境クラブ京都副会長)

原 強 (特定非営利活動法人コンシューマーズ京都理事長)



助成金案内 《環境取組を対象とした助成金情報を紹介します》 京都市ごみ減量推進会議と大阪湾広域臨海環境センターの助成事業を紹介します

●市民公募型パートナーシップ事業

○募集期間：
平成19年6月18日(月)～
7月16日(月) 必着

- 募集事業：循環型社会の実現に向けた事業で、本年度内に実施・完結する事業。事業形態は特に定めない。
- 対象団体：京都市内の市民団体
- 助成金額：1事業あたり上限50万円
- 応募方法：京都市ごみ減量推進会議事務局まで書類郵送または持参
- 問合せ先：京都市ごみ減量推進会議事務局
〒612-0031 京都市伏見区深草池ノ内町13
京エコロジーセンター活動支援室内
TEL・FAX 075-647-3444
<http://web.kyoto-inet.or.jp/org/gomigen/>
応募書類ダウンロード可

●環境保全市民活動等助成事業

- 募集期間：平成19年6月25日(月)～
7月24日(火) 必着
- 募集事業：循環型社会形成推進、リサイクルに関わる実践活動
水域環境の保全創造に関する実践活動
上記に関する環境教育・啓発活動
- 対象団体：大阪湾広域臨海環境整備センターの広域処理対象区域内に本拠を有する非営利団体
- 助成金額：活動経費の2分の1(上限20万円)
- 応募方法：電話連絡で書類を入手し、大阪湾広域臨海環境整備センターに提出
- 問合せ先：大阪湾広域臨海環境整備センター環境課
〒530-0005 大阪市北区中ノ島2丁目2番2号
ニチメンビル9F
TEL 06-6204-1725 (担当：高田)

事務局動静 6月 ～事務局スタッフの動きを報告します～



- 5日(火) 環境体験学習施設寄付受納式幹事会
えこまつりWG運営会議
- 6日(水) KES Cプロジェクト打合せ
- 8日(金) 京都GPN総会
- 12日(火) 脱温暖化行動キャンペーン京都ネットワーク会議
- 15日(金) 総会、幹事会、サロンdeエコ
醍醐コミュニティバス運行管理委員会
- 18日(月) KES Cプロジェクト打合せ、交通WG打合せ
- 19日(火) 歩いて楽しいまちなか戦略推進協議会幹事会
- 20日(水) 醍醐コミュニティバス役員会



【新連載】小山直美のドイツ報告 第1回 ドイツで見た森林保護施策



私は日本熊森協会でボランティアをしています。

日本では1960年代以降の拡大造林政策により、山奥まで自然の森を伐採し、スギやヒノキ一辺倒の人工林にしてしまいました。人工林は全森林面積の4割を占め、場所によっては7割、8割にもなります。そのために野生動物は山奥でエサがとれなくなり、人里に降りて来ては農作物被害を起し、害獣として殺されていっています。また、根が浅いスギ、ヒノキは保水力や土壌を支える力が弱く、地元では川の水が減ったり、土砂崩れ等の自然災害を起こすようになっています。

全生物に清浄な酸素と水を供給し、海には魚の棲める漁場を育て、二酸化炭素の吸収源にもなる、豊かな森。このような森の形成には、野生動物が多大な貢献をしています。野生動物と、動物たちが造る豊かな森を残さなければ、私たち人間も生きていくことができません。当会では、次の世代に、ツキワノグマなどの大型野生動物が棲めるような最高に豊かな森を残すことを目指して、奥地での広葉樹植林、環境教育、森林トラストなどを行っています。

この度、4月下旬から5月下旬までの1か月間、ふだんから当会の活動を応援してくださっている国際ロータリー第2680地区のGSEプログラムで、ドイツの南西部シュトゥットガルト近郊に、環境研修に行かせていただきました。ドイツは、自然保護が日本よりはるかに進んでおり、そのレベルの高さに、ただ驚くばかりでした。

ドイツでは、なだらかな丘が多く、森林を切り開くのが簡単で、30年戦争（1618～1648）や産業革命（19世紀）で、ほぼドイツ全土の森林を破壊し尽くしてしまいました。今ある多くの森は、人々が木を植えて造った森です。いくつかの人工林に行きましたが、日本のスギ・ヒノキ一辺倒の真っ暗な人工林とは違い、動物のエサになる実のなる広葉樹中心の、とても明るい森でし

た。例えばルートヴィヒスブルクにある森では、75%がオーク、ブナなどの広葉樹、25%が針葉樹でした。かつてはドイツでも、早く育つからという理由でトウヒやマツなどの針葉樹ばかりを植えていました。しかし20年～30年ほど前からは、針葉樹は嵐が来るとすぐに倒れてしまい、林業コストに見合わないこと、野生動物保全といった観点から、カシやブナを中心とした、自然の森に近い森造りを行うようになったとのことでした。特に1999年に大嵐が来た際、多くの針葉樹が倒れたことは人々の記憶に新しく、何人かの方から「針葉樹は根が浅いから、すぐに倒れてしまう。1種類だけの森は動物にも良くない」という話を伺いました。またドイツでは、森林生態系を考え、林業のための樹木の一律伐採は行わないとのことでした。

日本では、造林の際、どんな樹種を植えても同額の補助金が出ますが、ドイツでは政策として豊かな森を復元しようとしており、EUや州政府は、人々が広葉樹を植えたときにのみ補助金を出すそうです。日本でも人工林が問題になってきてはいますが、実際には、土砂崩れを起こしたスギの人工林跡地に、またスギの苗木ばかりが植えられたり、広葉樹でも、見た目がきれいなサクラやモミジといったもののみが植えられることが少なくありません。豊かな森は動物がいて初めてできるものですが、動物が棲める森という観点はなかなか入らないのが実情です。

ドイツでは一般の人たちも、森造りの際には様々な樹種を植えなければならないことを分かっており、人々の意識の高さと、徹底した施策は素晴らしいと思いました。

（小山直美）



ハウルブロンで見た人工林

冊子『京都市バス便利帳』ができました。

交通WGでの最初の構想から2年を経て、市民の方に京都の市バスの便利さ・お得さをあらためて知ってもらい、日常の交通手段をマイカーから市バスに変えてもらおうと意図して制作した冊子『京都市バス便利帳』が完成しました。

会員の皆様には、本号に同封してお届けします。その他、市内各所で無料配布しています（配布場所はフォーラムホームページをご覧ください）。



事務局短信 今月から、ドイツ研修報告を掲載させていただくことになりました。日本熊森協会代表としての参加だったため、自然保護分野の報告が主になりますが、CO2削減も、豊かな自然環境あってこそ。「21世紀は水紛争の世紀になる」という予測もある今、皆さんに、森林や野生動物の大切さについて知っていただく機会になれば有難いです。（小山直美）／2007（平成19）年度総会にご出席いただいた皆様、ありがとうございました。当日はKESステップ2の京都センチュリーホテル（KES2-0157）に会場設営・交流会準備等ご協力いただき、例年に比べ華やかな会になりました。ご出席いただいた方はぜひご感想などお聞かせいただければと思います。またご欠席だった方も何かご意見ありましたら、来年度の参考までにお聞かせください。（竹村光世）／今月号から本文の文字を少し大きくしました。紙面についてのご意見・ご感想もお寄せください。（長谷川吉典）